



こうべ森の学校だより

No.62
2015年1・2月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

六甲山の森林整備と防災

神戸市森林整備事務所所長 重藤 洋一

こうべ森の学校の皆様、明けましておめでとうございます。この冬は例年にもまして寒さが厳しく感じられますが、暖かな春が早くやってくることを期待したいものです。

去年は、全国で様々な自然災害に見舞われました。特に、8月の台風11号では六甲山系も大きな被害を受けました。また、それに続く広島市の土砂災害の被害は記憶に新しいことと思います。

広島市の土砂災害が発生した箇所は、六甲山とよく似た土質であり、六甲山の土砂災害対策にも注目が集まりました。

明治36年、それまで「はげ山」であった六甲山への植林事業がスタートしますが、植林に先立ち視察に訪れた本多静六博士は、当時の六甲山について「降雨のたびに土砂を流出し、河床ますます高くなり洪水間伐の害は年々ひどくなっている。(中略)」と述べています。

六甲山における大きな災害は、昭和13年の阪神大水害があげられます。この水害を契機に、六甲山の土砂災害対策として、植林事業と大規模な砂防ダム建設という2つの大きな災害対策が進められることとなりました。

昭和42年の水害では、昭和13年の水害時と同じくらいの激しい降雨がありましたが、これらの対策が一定の効果を受け、大きな被害は出たものの、その規模は大きく減少しました。六甲山では、森の手入れと砂防ダムという二つの柱を継続していくことが必要です。

現在、六甲山は緑豊かになったものの、常緑化が一樣に進行し、「暗い森」や「多様性の減少」といった課題が発生しています。その中で、「こうべ森の学校」の活動による森の手入れは大きな力となっています。活動開始以来10年間の成果は、20haを越える森林を手入れするまでになりました。

これからも、100年後の六甲山が緑で自然豊かな森林でありますよう、「こうべ森の学校」の活動がより良くなるよう私達も一緒になって取り組んでいきます。



明治36年 植林が始まったころの再度山



現在の再度山

ゆりりんの森から

ゆりりん愛護会代表 大橋 信彦

昨年の秋、マツ苗を育てている名取市高館(たかだて)の畑でレンゲの種まきを行いました。集まってくれたのは、震災前の閑上(ゆりあげ)中学校の卒業生七人(現在大学二年生)と地域の方、ゆりりん愛護会の有志、そ



レンゲの種まき(2014.9.13)

れに「日本レンゲ協会」佐藤芳博事務局長の皆さんでした。畑の所有者・遠藤敏明さんの了解を得てその日、ゆりりん愛護会と支援者の手で日本レンゲ協会から提供していただいたレンゲの種 10 キロを畑の空いているスペースに播きました。



種まきに集まってくれた皆さん

その昔、レンゲは“緑肥(りょくひ)”と呼ばれ、土壌を豊かにする目的や牛馬の飼料としてどこの農家でもそれを栽培していま



レンゲ畑(イメージ)

一度甦らせようと思ったものでした。

もう一つ、嬉しい出来事がありました。高館の畑にショウロが出てきたのです。今は“幻のキノコ”と呼ばれるショウロですが、高館畑のマツ苗の根にはショウロ菌が付いていて、それが昨年の10月、子実体(キノコ)

を発生させたのです。そこには「白砂青松再生の会」(小川真代表)の、マツと微生物の共生の関係を活かして健全な苗を育てるといふ、蔭の力がはたらいておりました。

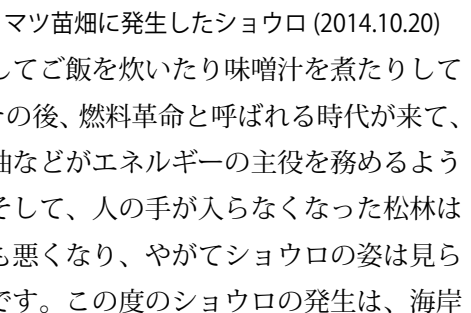


高館のマツ苗畑(2014.10.25)

戦後間もないころの海岸林ではショウロがたくさん採れました。その頃は、何処の家にも“かまど(竈)”



があって、松マツ苗畑に発生したショウロ(2014.10.20)葉や薪を燃料にしてご飯を炊いたり味噌汁を煮たりしていたのですが、その後、燃料革命と呼ばれる時代が来て、電気やガス、石油などがエネルギーの主役を務めるようになりました。そして、人の手が入らなくなった松林は陽射しも風通しも悪くなり、やがてショウロの姿は見られなくなったのです。この度のショウロの発生は、海岸林再生の目的に被災者の心の復興というもう一つの力を与えてくれるかもしれません。



ショウロの拡大写真

あの日から間もなく四年目の春を迎えようとしています。その間、「こうべ森の学校」をはじめ全国の多くの皆様から直接、間接の温かいご支援をいただきました。わたしたちはこのご恩を忘れることなく、これからも町と海岸と被災者の心の復興にも努めてまいります。皆様、今後ともご支援の程、よろしくお願ひ申し上げます。



在りし日の閑上海岸

宮城県の仮設住宅で年末のお手伝いと“ゆりりん愛護会”に支援金を贈呈

こうべ森の学校スタッフ 木下 英吉

12月13・14日、“ひょうごボランタリープラザ”の27回目となる東北被災地ボランティアバスに、森学スタッフ村上(文)氏と共に参加。今回は、2日間で宮城県内4カ所の仮設住宅で、主にお年寄り世帯の年末掃除お手伝いを19～76歳の17名の参加者で行いました。

○13日(土)午前、亶理郡山元町中山熊野堂仮設住宅



山元町仮設住宅

1人暮らし世帯が多く、普段手の届かない換気扇・照明・空調・窓ガラス等の清掃に2人一組で入る。お家の方とお話しをしながら、その出来具合から(?)「ここもお願いできる?」と追加注文をいただいたり、予定時間内で3世帯を終了。

○13日(土)午後、名取市愛島東部団地仮設住宅及び“ゆりりん愛護会”に森学からの支援金を贈呈



名取市仮設住宅

当住宅には、今年は3月・8月に続き3度目の訪問で、馴染みの方々に変わらずお元気な顔で迎えていただく。間もなく、ゆりりん愛護会・大橋会長に当仮設住宅までお越しいただき、昨年に続き4回目となる森学からの支援金を渡すことができました。当会が整備を続けていた松の海岸林が津波で壊滅状態となり、生き残ったマツカサからの育苗を



大橋会長に支援金贈呈

白砂青松再生の会に委嘱。その苗木を昨年4月に元の場所に移植し、そこにきれいな環境を好む“まぼろしのキノコ”と呼ばれるショウロ(松露)が顔を出した事。海岸に“スナガニ”が戻ってきた事。仮設住宅の入居者に元気を出してもらおうよう、協働で“海砂花壇”を完成させた事等々これまでの活動を熱く語っていただいた。その活動の様子を“森学だより”にぜひ寄稿していただくよう依頼し、短時間の慌ただしい中で本当に申し訳なかったが、再会をお願いして午後の作業に移る。

昼過ぎから気になっていた天候が悪化してきて、窓ガラスを清拭していると辺りが見えなくなるほどの雪とな

り、どこを拭いたのか未だなのかわからないほどで、ワイワイとお喋りも交ぜながら、予定作業を終了。

○14日(日)午前、気仙沼市面瀬中学校仮設住宅



大橋会長より近況を伺う

こちらでは、神戸市西区のNPO法人「阪神高齢者・障害者支援ネットワーク」故理事長が、阪神・淡路大震災での仮設住宅における孤独死等の経験から、「被災者は日が暮れてから寂しさが募り、その寂しさにこそ寄添うべき、助かった命を大切にしなければならない」と、東北の震災直後から避難所や仮設住宅に入り続け、24時間体制でケアに尽力されてきた。その強い志しや思いを引き継いでいることを自治会長や同僚スタッフから話していただいた。



気仙沼市仮設住宅

○14日(日)午後、登米市イオン南方店跡地仮設住宅

本吉郡南三陸町志津川地区の被災者が、町内で仮設住宅用地が確保できないため、同市内の商業施設跡地を借り受け入居されている。最後に入ったのが自治会長宅で、早く作業が終わり、少しお話を伺う。「仮設住宅が市街地にあり、便利が良いように見えるが、住み慣れた場所を遠く離れて暮らすのは辛いし、自分達でどうすることもできないのがもどかしい」と、本音を伝えていただいた。



登米市仮設住宅

帰りのサービスエリアに立寄ると、なんと、昨日の午後に入った愛島東部団地仮設住宅自治会長ら二人が見送りに来られていた。再会を伝え、帰路に向かう。今回は少数の参加者だったが、少しでも清々しい気持ちで新年を迎えるお手伝いのできたのか。また、被災地の方々からよく言われるのが、「忘れずに来ていただき、その気持ちだけで元気が出る、ありがとうね」と。当ボラバス主催者は、継続したマンパワーや交流が必要と支援派遣を続けている。私達も機会を見つけ参加し、その時々々の状況を周りに伝え続けていきたい。

六甲の花散歩 (その 37)

— ス ギ — (杉)

ヒノキ科 [旧スギ科] (スギ属)

神戸市立森林植物園 福本 市好

冬の山野に目立つのは常緑の木々たちですが、その中でも六甲の谷間や山腹でよく見られるのがスギやヒノキのやや赤褐色を帯びた樹林です。また松枯れも見られるものも、濃い緑のマツはコナラなど落葉樹の裸木とは対照的でよく目立っています。今回はこれら常緑針葉樹のうち、スギについてお話しいたします。花を愛でる対象ではないため、「六甲の花散歩」にはどうかとは思いましたが、昔から全国の山に多く植林されていること、また神社などでも必ず目にするとても身近な日本の代表的な木の一つでもあることなどから取り上げてみました。



(写真-1) スギの全景

スギは日本の固有種でスギ属一種とされています。かつてはスギ科として分類されていましたが、DNA 新分類によりスギ科が無くなり今はヒノキ科に分類されています。スギは分類上一種とされていますが、多くの変種や品種があります。造林樹種としても各地の気候や環境・土壌などに応じた品種があり、吉野杉・北山杉・秋田杉など有名な美木の産地があります。また、樹齢数千年の屋久杉のように巨樹になる寿命の長い木です。



(写真-2) スギ樹皮

六甲山地には本来、自生の天然スギがあるかは定かではありませんが、摩耶山には数百年もの巨木が生えており荘厳な樹形を見ることができます。ぜひ一度は旧天上寺跡周辺の森を散策してみてください。

「スギ」という名前の由来を知ったうえで木を見上げてみるとなるほどと頷けます。その語源として定説では、直なる木つまり「直木(すぎ)」で、横に枝分かれをしないで真っ直ぐ伸びる性質から付いた名前ということです。他にも上へと進み上り生長する木、つまり「進(すす)木(ぎ)」がスギとなったとの説があります。これを頭において改めてスギの木を見上げてみてください。きっ

と納得していただけるはずです。

スギはとても優れた有用木で、材は加工しやすく、柱材・板材・樽材として、樹皮は杉皮、葉は線香の材料また造り酒屋のシンボルともいえる杉玉(酒林)として使われます。

ところで近年は、「スギ」と聞くとすぐに頭に浮かぶのが花粉症です。スギは早ければ2月中旬から3月にかけてたわわに雄花をつけ花粉を飛ばします。この花粉の量は年によって変動があり、気象庁が花粉情報を発表していますが気になってチェックしておられる方も多いと思います。

スギが花粉を飛ばすのは種子をつくり子孫を残すための植物本来の営みなのですが、多くのスギの造林地では用材として活用されないまま大きく育ち、大量の花粉が発散させていることは大きな問題です。また造林地の間伐などが行われないことで、林内が暗くなりすぎ下草が生えず生物多様性に乏しくなるという問題も起きています。

多くの難題を抱えている日本の林業ですが、先人たちが苦勞して植えたスギ、ヒノキなどの造林木が活かされる対策が望まれます。

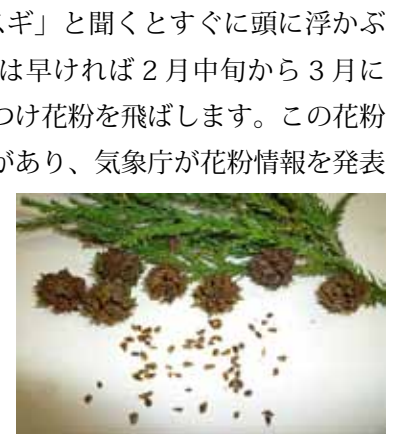
最後に一つ。幼い頃の遊びの道具でスギの木は欠かせないものでした。それは

細い竹を使って作る杉鉄砲です。まず愛用の「肥後の守」の小刀で鉄砲本体を作ります。そしてスギの雄花がまだ固いものを竹筒の中に一つ詰める二つ目を詰めると竹ひごの柄を一気に押し込むとパチン！と、いい音がして弾が飛び出します。口の中に何粒ものスギ弾を含んでは悪ガキたちと神社の境内を駆け回って遊んだ日々が懐かしく思い出されます。今の子供たちはこんな遊びをしているのでしょうか？



(写真-3) 葉と雄花穂

皮、葉は線香の材料また造り酒屋のシンボルともいえる杉玉(酒林)として使われます。



(写真-4) 熟した球果と種子

スギが花粉を飛ばすのは種子をつくり子孫を残すための植物本来の営みなのですが、多くのスギの造林地では用材として活用されないまま大きく育ち、大量の花粉が発散させていることは大きな問題です。また造林地の間伐などが行われないことで、林内が暗くなりすぎ下草が生えず生物多様性に乏しくなるという問題も起きています。

多くの難題を抱えている日本の林業ですが、先人たちが苦勞して植えたスギ、ヒノキなどの造林木が活かされる対策が望まれます。



(写真-5) 杉鉄砲と雄花の弾

六甲の野鳥撮影の記録 (その6)

日本野鳥の会会員
全日本写真連盟会員
村瀬 眞一郎

【冬に見られる野鳥 (後編)】

前編では、ジョウビタキ、ルリビタキ、ツグミ、シロハラ、ミヤマホオジロ、カシラダカ、アオジといった六甲山系で比較的好く見られる野鳥を紹介しました。後編では少し見つけにくい野鳥を紹介します。年によって飛来する個体数が増減し、また全く来ない年もあります。

[アトリ]

スズメより少し大きく、比較的好く見ることができます。オスは頭上から頬、背は黒く、胸と肩はオレンジ色、脇に黒い斑があります。メスは全般的にオスより淡い色です。実の付いた木に多くが群れている光景をよく目にします。飛びながらキョッ、キョッと鳴きます。



アトリ

[ウソ]

スズメより少し大きく、ずんぐりむっくりした体型です。嘴は短く太い。オスは喉と頬が赤く、頭と尾は黒、背と腹は灰色です。メスは赤色部分がなく、他はオスとだいたい同じ色です。実の付いた木に多くが群れています。ヒー、フーなどと口笛のような声を出して鳴きます。



ウソ

[シメ]

スズメとヒヨドリの間位の大きさです。太い嘴といかつい顔が特徴です。オスは頭と頬は茶発色、胸から腹は肌色、首回りは灰色、翼は黒です。メスは全般的にオスより淡い色です。あまり群れず、地上で木の実などをたべています。ビチッ、シーッなどと鳴きます。



シメ

[オオマシコ]

ヒヨドリくらいの大きさです。2～3年に1回位しか六甲山系には飛来しませんので、飛来時は大勢のカメラマンが集まります。オスの成鳥は全体的に鮮やかな赤色、頭と首は白、翼は黒褐色です。メスは全体的に茶色っぽく地味です。ツィーとかフィーと鳴きます。



オオマシコ

[ベニマシコ]

オオマシコより少し小さい赤い鳥ですが、毎年見ることができます。オスはオオマシコと似ていますが、翼に2本の白帯が目立つので、区別できます。メスは全体的に褐色で黒い縦斑があります。澄んだ声でフィッと鳴きます。



ベニマシコ

[キクイタダキ]

スズメより一回り小さく、日本最小の野鳥です。雌雄ほぼ同色で全体的に茶褐色、目の周りが白、翼に白い帯があります。オスの頭上は鮮やかな黄色をしています。ジーと細く濁った声で鳴きます。



キクイタダキ

[マヒワ]

*スズメより一回り小さい。オスの頭は黒、背は緑灰色、顔から腹は黄色、下腹の脇に黒の縦斑点があります。メスは薄い黄色です。群れて飛来します。チュッピンとかジューイと鳴きます。



マヒワ

シリーズ 私のヒヤリハット ②

こうべ森の学校安全衛生委員会では、会員の皆さんからヒヤリハット体験談を募集しています。ちょっとした不注意から大きな事故に至る場合があります。お互いに情報を共有して、森の活動の安全に繋げていきましょう。

切り痕でむこう脛に怪我

木下 英吉

今年度から例会での作業地には、1年間目的を持って入り、その移り具合を体感しようとしているところです。

この作業地は、洞川湖に面し急峻な地形にもなっています。作業を始めた頃は、ヒサカキ・アセビ等の低木が茂っていて、土表面にはあまり日差しが届いていない場所でした。

毎回、作業前には「足元に注意しながら移動してください」と喚起していますが、その時は斜面下側から上側に移動している時でした。何かにつまずき、その勢いでまともにむこう脛を打ちつけました。打身と少し血がにじんだ程度で済みましたが、しばらく殴打した箇所をかばうような仕草になりました。その瞬間は何につまずいたのか分からず、辺りを見回してみると、ヒサカキの

15～20ミリの径のものが多く、それらを切った場所でした。その切り痕がどれも斜めで土表面から20cm高、既に萌芽した状態でした。自身の



切り痕の多い作業現場

足元への注意が足らなかったのと、萌芽が切り痕をカモフラージュしていたのが複合して気が付き難かったものです。まともに倒れていれば、切り痕が手のひらや他の部位に刺さり、大怪我になるところです。

そこで「安全マニュアル」にもありますように、鋸や鋸でも“受け口”の要らない木の伐倒はできるだけ土表面に近い箇所を、それ以上の太い木の伐倒には土表面から30cm程の箇所を、切り痕が斜めにならないように心掛けましょう。例会場所に限らず、作業地には他の複数の仲間が入ります。特に急峻な場所では、よけいに安全を確保するよう努めなければなりません。同じ伐倒作業でも、この“ちょっとした行為”を意識しながら行いたいものです。

■ 12月21日と1月10日の例会トピックス



1月10日の例会時の集合写真

12月21日の例会では豚汁の提供、

1月10日の例会はぜんざいの提供がありました。



シリーズ ボランティア活動 ⑤

長塩 正之



森の学校に通い始めてから、今年の春でまる6年になります。森林ボランティアという活動に関わるきっかけは、二つありました。まず、森林インストラクターになりたいと思

い立った時に、林業という試験科目が日常生活と最も遠い存在でした。少しでも知る手掛かりを探していました。そして偶然にも兵庫県森林ボランティア講座を受講する機会を得た事が、今に繋がっています。

講習を受けた当初は、森林ボランティアに対してはそれほど積極的に取り組む考えは持っていませんでした。昔の「草刈十字軍」のイメージが強かったのかも知れません。ボランティアという言葉が煙たかったのかもしれない。そんな私が森林ボランティアのどこにのめり込んだのでしょうか。

自分の意志で参加するのがボランティア活動です。森の手入れについて言えば、出来るだけ自宅から近い場所

■東お多福山すすき草原再生プロジェクト

東お多福山草原保全・再生研究会主催の平成27年度の活動日程をお知らせします。

- 4月15日(水) ネザサ等の全面刈り取り
- 4月18日(土) 阪急・阪神セミナー
- 5月20日(水) 登山道整備
- 7月22日(水) コドラート刈り取り
- 10月7日(水) コドラート刈り取り
- 12月12日(水) ネザサ等の全面刈り取り

右は東お多福山の画像 上は昭和12年頃ロックガーデンより撮影(木藤精一郎著 六甲北撰ハイカーの徑より)

下は平成20年4月荒地山より撮影



■六甲山森林整備から土砂災害を考えるフォーラム

阪神・淡路大震災から20年が経過した今、過去の災害や六甲山で実施されている様々な事業を紹介するとともに、様々な現場で活動する人々からの発表を通じて、六甲山のこれからの100年の森づくりと土砂災害防止について、市民の皆様により関心をもっていただくことを目的にフォーラムが開催されます。

なお、このフォーラムの参加には申し込みが必要です。

神戸市総合コールセンター TEL:078-333-3330 にお問い合わせください。

で行いたかったことがあります。森の学校の再度山は程よい近さでした。別に活動している打越山はまさに裏山です。ボランティア開始以前は、私にとって「山へ行く」とは、「山道を歩く」ことでした。ところが森林作業を通して、山道はずれた処に、本当の山の姿を見つけました。また森の中で、沢山の仲間と巡り合うことが出来たことを感謝しています。

私は森林インストラクターとして活動しています。森林内の活動として、観察やゲームなどを行いますが、最近では森の手入れや間伐体験も増える傾向にあります。森林作業は危険がいっぱいです。危ない、怖い、きつい作業の向こう側に、楽しく明るい森が開けていくことを体験を通して伝えたいと考えています。森の中で人々が安全に過ごせるためにも、今までの経験を活かしつつ、技術、安全管理の両面でスキルアップをしたいと思っています。

最後にボランティア活動と言えば、世のため、人のためとの考え方が一方では強いように思います。私の森林ボランティア活動の基本は、自身の健康維持のためと思っています。

身体が動く間は、せつせと「山へ行く」としましょう。

1. 開催日時 平成27年2月21日(土)10時～17時
2. 開催場所 相楽園会館
3. 主催 国土交通省近畿地方整備局六甲砂防事務所
兵庫県 神戸市
4. プログラム・パネル展示 10時～17時
 - ・基調講演 13時～14時
兵庫県立大学名誉教授 服部保氏
立命館大学工学部教授 里深好文氏
 - ・事例紹介 14時20分～15時
 - ・リレートーク 15時10分～16時10分

■前々回・前回の報告

日付	参加者	司会	午後・森の手入れ	木工工作	自然観察	苗づくり
12月21日(日)	76名	久保 順一さん	20名	33名	10名	0名
1月10日(土)	52名	黒子 兵吾さん	13名	9名	0名	0名

■参加人数報告

12月の延べ参加者は185名でした。1月の延べ参加者は155名でした。4月～1月までの参加者累計は1,926名となりました。

■年末大掃除

12月25日にログハウス内、外回り、倉庫、作業小屋等を大掃除しました。



ログハウス内の清掃

安全は身の回りの整理整頓から。

1年の間にたまった埃や汚れを落として新しい年を迎える準備をしました。



道具の整理

■安全祈願祭

1月8日に安全祈願祭が行われました。1年間事故やケガが無いように誓いました。



■厳冬期の再度山

今年は暖冬予報が外れ、厳しい寒さが続いております。1月29日撮影の霜柱です。



1月31日は、あられが降り出して、風楽山荘前の広場一面に敷き詰められました。



お知らせ・掲示板

♠バスの運行

こうべ森の学校がある再度公園には阪急バス7系統(神戸駅南口～鈴蘭台)をご利用ください。水源池バス停で下車、徒歩25分です。

神戸市バス25系統(三宮～森林植物園)は12月～3月の間、運休しています。

平成26年度から再度公園駐車場が無料開放されています。こちらもご利用ください。

♠摩耶の森クラブ

次回の月例会の開催予定日は(変更の可能性あり)

3月29日(日) 活動場所は摩耶山掬星台
(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

次回開催予定日は 3月29日(日)

(問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

会員活動の開催予定日

・月例会 3月14日(土)・4月19日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。

編集後記

春の気配を届ける二十四節気「立春」は過ぎ、「雨水」はもうそこまで来ています。

昨年2月の例会では、季節の移り変わりを告げるかのように、雪が残る作業地で“自然の椎茸7本がニョコッ

と”顔を覗かせてくれました。これからは“小さい春”が、あちこちで競うように顔を出してくるので、それを見つけてあげましょう！ 森学での活動もあちこちと、手元・足元にも目配り・気配りですよ!! (木下 英吉)